



ぼうしゆ
芒種（5日）… 紫陽花が色付き始めます …

気温や湿度が上がり、衣替えの季節となりました。梅雨入りも間近と思われます。少し前から園庭の紫陽花も色付き始めています。入園式の式花も、今年は紫陽花をアレンジした寄植えにしてもらいました。立て看板や壁面装飾も紫陽花やカエルをあしらうという、今までにない年度初めとなりました。また、砂場の上のザクロ（柘榴）がきれいなオレンジ色の花を咲かせ始め、ポロポロと落ちた花のガクが「タコさんウインナー」のようで、子どもたちが砂場での遊びに使っています。アズの実も少しずつ色付き始めています。

<蠃螂生 かまきりしょうず 6月5日~6月9日>

芒種の初候は「蠃螂生」です。秋から冬にかけて、ススキの茎などに付いたスポンジ状のカマキリの卵を見付けることがあります。かつて、子どもが持って来たカマキリの卵を保育室に置いておいたことがありました。ちょうど今頃の季節、朝、気付くとその卵から小さな赤ちゃんカマキリが連なってぶら下がっている姿を発見して大騒ぎになりました。1cmくらいの小さいカマキリがウジャウジャと部屋中に散ってしまったのです。同じようにたくさんいたわくわく池のカエルも、今は園庭の草むらや落ち葉の陰などで暮らしているようです。そして、そのうち大人になるのは、ほんの一握りです。

<砂場の上のザクロ（柘榴）がきれいです…>



素人仕事ながら、剪定が功を奏したのか、きれいな花がたくさん咲いてくれています。そして、花の外側のガクと呼ばれる部分が、砂場に落ちて、「タコさんウインナー」として子どもたちにとって遊び心をくすぐるヒット商品となっています。色といい形といい、どう見てもウインナーですよ。

今年は、今まで以上に自分たちで手入れや観察をしているからなのか、昨年までに比べて園庭にある自然物に対する気付きが多いように感じます。遊びや生活に生かしていくこともできていて、うれしい限りです。



例年バラ門に設置する入園式の立看板を今年は、ザクロの木に立て掛けてみました。記念写真を撮るのに間隔を空けて待つことができ、歩道をふさいでしまうことを防ぐこともできて、大正解でした。



保育室の壁面は、身近な季節を感じたり、室内遊びと園庭での遊びをつなげたりする意味があります。基本構図に徐々に子どもたちの作品を加えていくこともあり、とても重要な教育的な環境の一つです。

園庭の高い樹木は、春休みに業者に剪定してもらいましたが、時間切れで剪定しきれなかった中低木は、主事さんと一緒に新山造園が剪定を請け負っています。

ザクロは、ずっと気になっていて、4月後半に脚立を押さえてもらって、剪定しました。トゲがたくさんある枝が剣山のように上へ上へと伸びていたのをかなり刈り込みました。5月半ば頃から、つぼみが付き始め、今は鮮やかなオレンジ色の花がきれいに咲き誇っています。秋には立派な実が成るはずですから、みんな楽しんで見守りましょう。